

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371400884
法人名	有限会社 さくら
事業所名	グループホーム浦里
訪問調査日	平成 19 年 6 月 18 日
評価確定日	平成 19 年 7 月 14 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2371400884
法人名	有限会社 さくら
事業所名	グループホーム浦里
所在地	〒458-0847 名古屋市緑区浦里5丁目109番地 (電話) 052-624-3382

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町1丁目24番地 COMBi本陣 N203号室		
訪問調査日	平成 19年 6月 18日	評価確定日	

【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造・陸屋根 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,500 円	その他の経費(月額)	66,450 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(105,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	550 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,350 円			

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 74 歳	最低	66 歳	最高	80 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三つ葉在宅クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で選んで、決める暮らし」を運営理念とし、「自立支援」を目標とした介護を徹底して実践しており、開所以来「鍵をかけないケア」にも取り組んでいる。 ・ホームでは3~4世代交流が行われており、昔の大家族がここにある。子供を見る利用者の目は生き生きと輝いている。 ・玄関は施錠されていないので、地域との交流は自由である。利用者が一人で散歩に出かけられるのは、地域住民への協力を働きかけてきた成果である。 ・開設当初より職員が定着していることから、職員間の人間関係や働く環境の良さがうかがえる。利用者にとってなじみの関係が続くこと等、影響は大きい。 ・代表が看護師で協力医療機関による医療連携体制をとっており、医療面では安心されている家族も多い。終末期に向けた支援に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の評価では、個人記録の管理、職員間の情報伝達や会議内容の記録化などが課題とされていた。前者に対しては、ファイルの仕方を工夫することによって、書類の離脱もなく、きちんと管理されている。後者に対しては、以前のやり方に改良を加え、後から再度確認ができるように記録を残すように取り組まれている。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤も含めた全職員の意見を取り入れるために数回に分けて話し合う場が設けられ、代表、ホーム長、管理者の三者によりまとめられている。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か月おきに定例的に充実した運営推進会議が開催されている。 ・災害時の地域住民との相互協力体制の確保について、地域住民に対しては救出の協力を要望し、事業所としては近所の避難所として開放していく方向で進めている。 ・ホーム内で行っている音楽療法、アニマルセラピーや落語など、地域住民に参加を呼びかけている。
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族からの意見、苦情等は、その受け答えに一貫性を持たせるために窓口を一本化し、ホーム長が担当している。ホーム長と家族は気兼ねなく意見や不満を言える関係が築けている。 ・運営推進会議のメンバーに利用者家族が2名参加しており、その意見が運営に反映される仕組みは整っている。
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会には加入しており、公園の清掃や側溝の掃除等があれば、町内の一員として利用者、職員ともに参加している。 ・ホーム内で行われている月一回の手芸教室には地域の人も参加している。 ・回覧板を通して「ホーム便り」を発信し、介護相談や喫茶など地域の人が気軽に立ち寄れるように働きかけている。
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所の理念に「自ら選んで、決める暮らし」を掲げている。また、「決められたスケジュールはなく、家庭に限りなく近い環境で」、「世代をこえた交流、地域との交流」など5つの家訓のもと、地域の中で自分らしく自立できる生活を送れるように目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・手書きの理念や家訓が玄関先や居間など目に付くところに掲げられてあり、管理者と職員は常に理念を意識しながら、日々の利用者の自立支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の一員として自治会に加入し、近くにある公園の掃除や側溝清掃にも町内の人と一緒に参加している。 ・月一回、外部の講師を招いた手芸教室を開催しており、利用者や地域の人も参加し、交流の場ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員一人ひとりが外部評価の意義を理解しており、その理解のもと、自己評価は代表者や管理者など一部の職員で行われるのではなく、話し合う場を何回も設け、職員全員で作成されている。 ・昨年の評価結果を前向きに捉え、記録を残すなど具体的な改善がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・19年6月現在、4回の運営推進会議が開かれている。 ・議事録から事業者の一方的な報告に終わらずに、参加者のほとんどが発言されていることが確認できる。 ・会議での意見が活かされた例として、ホームを独居高齢者の憩いの場として提供を申し出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・事業所では生活保護者を受け入れており、区役所の民生課へは介護計画書の送付時や民生課の職員の訪問時に情報交換を行っている。 ・介護保険課へは利用者の転居先の相談や利用申込者の受け入れの依頼等、双方に連携がとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・来訪される家族には、その都度利用者の暮らしぶりを写真などを交えながら伝えている。 ・毎月請求書を送付する際にも、金銭出納帳に領収証を添えて同封し、近況とともに報告している。	○	・運営推進会議の議事録は、玄関口に備え付けられているが、来訪されない家族や会議に参加できなかった家族へも、その内容を報告されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ホーム長は、家族から気兼ねなく意見や不満が言える関係作りに配慮している。また、相談、苦情等の窓口も担当している。 ・年2回、家族会を開催し、家族同士で意見を交換する仕組みを作っている。	○	・相談・苦情等の対応事例は記録に残し、よくある事例等については「家族への近況報告」などで事業所の考え方を知らせるなどについても検討されたい。また、要望事項アンケートの定期実施なども検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・1ユニットの利点として、法人内の職員の異動はない。異動が起こり得るのは離職であるが、開設以来職員の離職はほとんどない。 ・運営者は、勤務の調整や勤務以外での食事会を催すなど、職員が働きやすい環境作りに努力されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者や非常勤も含めた全職員に対して、掲示により研修の案内等の情報を提供している。 ・自主的に交流会、研修、講習会に参加したい職員には、希望が叶うように勤務調整を行っている。 ・働きながら国家資格を取得した職員もいる。	○	・その時々に必要な研修の実施や年次段階に応じた研修等を年間を通して計画し、その定例的な実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・なごや南東部(6区)のグループホーム交流会の参加を通して、同業者との交流を図っている。 ・グループホームの親睦会、認知症の勉強会、福祉の異分野の集まりにも参加し、そこで得た情報をサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホーム長は入居の相談を受けると、必ず入居希望者ご本人に会い、話を聞いている。時には自宅や病院等に出向くこともある。 ・入居したばかりの利用者には、徐々に馴染めるよう1週間程同じ職員が関わり、不安の解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員はごく自然に利用者から梅干やらっきょうの漬け方を教わったり、料理の作り方を訊きながら、本人と一緒に食事の支度をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居相談の段階で聞き取ったアセスメントで終わらせずに、日々の関わりの中で気づいた本人の希望、意向をカンファレンスを通して全職員が把握している。 ・ご自分の思いを表現されない方には、職員が表情から汲み取った内容をご家族に確認するなどして、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・日々の関わりの中で気づいたこと、ご本人の話されたこと等を記録している個別ノートとご家族が来訪された時に確認し合った内容や希望をもとに、利用者本位の介護計画が作成されている。 ・介護計画の評価は、全職員が関わられるように工夫されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3か月ごとに介護計画の見直しを行い、ご本人とご家族の同意を得ている。 ・毎月2回に分けてカンファレンスを行っているため、介護計画の変更が必要な場合には、見直し期間に関係なく、ご本人の状態に即した介護計画が作成できる体制になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・24時間看護が可能な医療連携体制により、住み慣れた場所で安心した生活が継続できる仕組みが整っている。 ・通院が必要な時の移送サービス、個人のための買い物等の代行サービスも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・基本的にはご本人とご家族の納得と同意の上で、協力医療機関の医師による受診となっているが、入居前に、かかりつけ医と協力医のどちらかを選択できる仕組みになっている。 ・かかりつけ医の医療情報は事業所に集約され、介護に活用できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入居の段階で、ターミナルケアに係る指針について説明し、書面で同意をとっている。 ・実際にターミナルケアを提供する際にも、再度説明し、同意の確認をとっている。 ・介護計画とは別に、必要な利用者には看護計画が立てられ、協力医と職員は情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は利用者一人ひとりの尊厳の維持やプライバシーの保護に留意した言葉かけや対応に努めている。 ・入居時に個人情報の使用に関する同意を書面であっており、記録等の個人情報は、容易に人の目の触れない場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・生活にメリハリをつけるために、1日の流れはあるが、家庭にいる感覚で、1日の過ごし方はご本人の意思を尊重したものとなっている。 ・1人ひとり過ごし方のペースが異なるため、ご本人に合わせて職員が調整している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は自家製の梅干や家庭菜園で収穫した旬の野菜を話題に楽しく会話が弾み、利用者と職員が食卓を囲んで同じものを食べている。 ・食器は季節感を取り入れた陶磁器が使用されており、料理を一層引き立てている。 ・準備や片付け等は利用者自ら参加している。 		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は10～17時頃の間ならば、毎日入ることができるようになっている。 ・入浴に対しては、利用者から様々な希望があるため、それに合わせて工夫がされている。 ・入浴剤を使ったり、季節に合わせて菖蒲湯、ゆず湯にしたり、入浴を楽しめるように工夫されている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は梅干作り、洗濯物干し、食器洗い等、利用者各人の発揮する場面を作っている。 ・絵を描いたり、パズルやカラオケをしたり、新聞を読んだり、各人が自由に楽しんでいる。 ・気候のよい時期には、庭に出ておやつを食べたり、公園にお弁当を持って行くこともある。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から希望があれば、また職員から言葉をかけて、ご本人の体調に注意しながら日常的に散歩、買い物等に出かけている。 ・寒い日には日なたぼっこをしたり、暑い日には涼んだりできるように、ベランダや庭にベンチや椅子を配置し、戸外に出られる工夫をしている。 		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍵をかけない」、「拘束はしない」が開設以来の方針であり、出入口は夜間以外は施錠されていない。 ・玄関は日常的に開放されている。 ・地域住民に利用者への声かけ、見守りを呼びかけるなど、鍵をかけずにすむ工夫に取り組んでいる。 		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時、事故発生時の対応マニュアルと連絡網が、電話機のそばに貼付されている。 ・年2回、地震火災が昼夜を問わず起こったことを想定した避難訓練が利用者と共に行われている。 ・各階の台所に消火器が置かれている。また、非常用の食料や飲料水、簡易トイレ等も準備されている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地震による建物の崩壊や食器棚、タンス等の倒壊はないか、また窓ガラス等の飛散はないかなど、災害対策に更なる工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・朝食はお粥にして、利用者が食べやすく胃腸に負担のかからないように配慮されている。 ・食事摂取量を記録し、職員全員が把握している。 ・嚥下状態に合わせて、ミキサー食やきざみ食に調理し、必要な栄養や水分が摂れるように工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・開かれた玄関からは風が流れ、建物内の換気にもなっている。 ・建物内には利用者の活けられた花が飾られたり、季節に合った飾り付けがされている。また、玄関先や庭には花や草木、野菜が植えられてあり、季節感が出ている。 ・建物内外の5箇所に、椅子やソファが置かれ、好きな場所で休めるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・タンスや仏壇など、使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。 ・利用者の希望に合わせて、ベッドの位置や向きを変えるように努力されている。 ・テレビは別途使用料がかかるが、入居者の希望により居室で自由に楽しむことができる。		